

## 2019年度（令和元年度）広島市立大学卒業式学長告辞

学部卒業生、大学院修了生、博士号取得の皆さん、本日はご卒業、ご修了、学位取得、まことにおめでとうございます。これまで卒業生・修了生を支えてこられましたご家族の皆様にも大学を代表してお慶びを申し上げます。

昨年5月に時代は平成から令和と変わり、皆さんは令和最初の卒業生、修了生となります。まさに、時代の境目に皆さんは本学を卒業・修了されることとなります。本日の卒業式を迎えるにあたり、皆さんの胸の内には、本学で過ごした年月における様々な思い出が、まさに走馬灯のように浮かんできているのではないのでしょうか。

皆さんが本学で勉学にいそしんでいた年月、日本および世界はいろいろな出来事がありました。本日の学部卒業生の多くが入学した4年前の2016年4月以降で考えても、日本では2016年に4月に熊本地震がありましたし、同じ年の5月には現職の米国大統領として初めてオバマ大統領が広島平和記念公園を訪れました。そのオバマ大統領に代わって、2017年1月には現在のトランプ大統領が就任しました。2018年7月には西日本豪雨災害があり、広島も大きな被害を受けました。2019年10月にも東日本各地は台風19号で大きな被害が出ました。広島にとっては、2019年11月にローマ教皇が広島市を訪問したのも大きなニュースでした。そして、昨年末からは今も全世界で感染が拡大している新型コロナウイルスです。

この4年間の出来事を振り返ってもわかるように、日本も世界も今、激動の時代を迎えています。世界中で紛争は続き、世界情勢は混沌としたままです。グローバル化の波はとどまることを知らず、グローバル化の弊害も大きくなってきています。この度の新型コロナウイルスのパンデミックもグローバル化がもたらしたものとも言えます。

一方、グローバル化に対抗する形で、国家、民族、人種、宗教等に根差した内向き志向のローカル化とも言うべき現象も世界中で拡大しており、軋轢も生じています。自然界に目を向ければ、地球レベルで異常気象が続いており、気候変動は今後、ますます大きくなりそうです。さらに、テクノロジーにおいても人工知能や生命科学など、社会の仕組みを根本的に変える可能性を持つ科学技術の進展が今後、予想されています。

19世紀後半から20世紀初頭にかけて活躍したフランスの画家、ポール・ゴーギャンの代表作に「我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか」があります。まさに人類は今、この問いを突き付けられ、答えに窮しているように見えます。

今年、卒業・修了される皆さんは、このような不確実性がますます増大する世界において、21世紀後半に至るまで、社会の主役として生きていくこととなります。今後の人生において、皆さんは解決しがたい困難に直面することも恐らくあるでしょう。進路を見失い、どうしてよいかわからなくなることもあるかもしれません。そうしたときに思い出してもらいたい言葉を1つ、きょうは、はなむけの言葉として皆さんに贈ります。

「少しだけ、無理をして生きる。」これは、1927年生まれで、2007年に亡くなった直木賞作家、城山三郎の言葉です。日本における経済小説の開拓者であり、歴史小説も多数、書いています。

城山三郎はエッセイで次のように書いています。

「自分を壊すほどの激しい無理をするのではなく、少しだけ無理をして生きることで、やがて大きな実りをもたらしてくれる。知らず知らずのうちに、元の自分では考えられないほど、遠くまで行けるかもしれない。自分の世界が思わぬ広がりや深みを持てるかもしれない。」(城山三郎『少しだけ、無理をし

て生きる』新潮文庫)

作家のこの言葉には深い真理があります。人間、誰しも火事場の馬鹿力は持っていますが、そうした極端な無理は長く続くものではありません。一方、少しの無理であれば、本人が意識さえすれば、長く続けることができます。そうして、その少しの無理でも長く続けることができれば、大きな成果をもたらすのです。

何かの困難に直面したとき、道に迷ったとき、すぐに安易な方を選ぶのではなく、この言葉を思い出し、少しだけ無理をしてみてください。その積み重ねが、皆さんの人生に豊かな実りをもたらすはずです。

前途洋々。まさに、皆さんの前には光り輝く未来が広がっています。どんな困難があったとしても、本学で学んだ皆さんであれば、新しい道を切り開く力を持っています。それを信じて、前に向かって進んで行って下さい。

最後に、新型コロナウイルスの感染拡大により、本学においても、本日の卒業式が例年の形式では実施できなくなったことはまことに残念な限りです。本学の歴史においては初めてのことです。しかしながら、皆さんの卒業・修了を祝い、新たな門出を祝福する大学教職員、ご家族、そして皆さんの友人・知人の心は卒業式がどうであろうと変わりません。どうか、本日を新たな門出の日として、勇気を持って新しい世界に旅立ってください。皆さんのこれからの健康と幸運、ご活躍を心より祈ります。

本日は、ご卒業、ご修了、まことにおめでとうございます。

2020年（令和2年）3月23日

公立大学法人広島市立大学 理事長・学長 若林 真一